

谷裕介(Yusuke Tani)

# Artist in Project

-ドミニカ共和国-

【調査報告：ファッション×開発】



## [調査目的]

- ①保健サービス庁とのヘルスプロモーターユニフォームのデザインおよび機能について意見交換。また展開にむけての最終確認。第一次保健施設CPNを訪問し、ユニフォームの試着と意見交換。
- ②国際的カカオ生産・輸出企業Rizek社向けの農業着デザインとコンセプトの説明。また展開に向けての最終確認。
- ③環境KIDs事業(服育)の実施。ドミニカ共和国教育機関における講義との連携。
- ④Achadonとの意見交換。和CHACABANAの製作と今後の万博に向けた活動に係る最終確認。また、ドミニカ共和国国内におけるファッションショーの開催と広報活動の強化。



## [概要]

2023年度のフィールド調査に基づき、開発現場におけるユニフォームの導入が、農業現場や医療現場で働く人々の意識向上および、新たな広報の価値となることを目指した。開発現場におけるヴィジュアルブランディングの側面から、デザイン製作を実施した。

特に「ユニフォーム・オブ・プライド」を中心テーマに、国際協力の文脈におけるファッションと開発の潜在的可能性をフィールド対象地であるドミニカ共和国の農業あるいは医療現場で表現すること。そして、製品を通じて、各地の現場において意見交換を踏まえると共に、実装してもらうことから、マニュアルに向けての段階を構築する。

また伝統服であるCHACABANAのデザイナー達との、日本における着物の端切れを使用した「和CHACABANA」を共創し、製品化。新作品に関しては、コトウイでのファッションショーで初披露し、テレビ取材などにおいても紹介しました。来年の大阪万博におけるドミニカ共和国ブースにおいても、CHACABANAのファッションショーを企画しており、日本の素材を使用したCHACABANAの展示や彼らの活動や製作過程を展示する空間演出などをブース内に取り込みに向けてさらなる連携強化を目指す。

環境Kidsにおいては、ドミニカ共和国の公立学校で、「服育」イベントを開催しました。「大好きな服と出逢うために」をスローガンとし、服を選ぶ際に7つの基準を設けてみることを提案しました。本授業の中でも、大量生産、大量消費の実態を含め、衣服と環境問題の繋がりを認識した生徒達に、改めてさまざまな視点を問い直し、各自に7つの項目を埋めてもらいました。そしてワークシートには、「理想の服」を描く箇所があり、各生徒がデザインをしたファッションデザインを通して、意見交換と発表を行いました。

先進国から、多くの衣服が輸入されるドミニカ共和国にとっては、単なる消費材として衣服を選ぶのではなく、自らのファッションスタイルを確立していくことがファッションと環境の関係を改善する機会となることを提案しました。



## [今後の課題]

### ①ヘルスプロモーターユニフォーム

マニュアル化に向けて、年内における試着と実装感の確認に関しては、定期的なモニタリングが必要となる。実際にユニフォームが使用されているか。ユニフォームを譲渡した18人のヘルスプロモーターたちへの確認が必要になる。使いやすさ、モチベーションの変化など、いくつかのインタビュー項目を作成し、ユニフォームに関する情報収集がいる。

また、マニュアル化に向けては、ユニフォームのロゴの製作ができる縫製工場も再度探す必要がある。

### ②農業着

Rizekにおいては、すでにサンプル生地調達および、ユニフォームの採用がおおよそ確定している状況にある。帰国後、国内デザインチームが管理する農業着の型紙を年内に届け、Rizekが関与する団体に共有し、製品化の流れとなる。

### ③CHACABANA

帰国後、日本の着物や和柄生地など、端切れの調達を再度実施する。来年の万博におけるドミニカ共和国ブース内におけるCHACABANAの展示あるいは、ファッションショーの開催に向けて、さらなる意見交換やデザインのアップデートが必要となる。デザイン競争のために、CHACABANAと和柄を組み合わせたイベントの開催を大使館あるいはJICAドミニカ共和国事務所が主体となる必要がある。